

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<p>京都府立盲学校創立150周年(令和10年度)に向けて、時代のニーズに応じた学校づくりを第2期5カ年計画として目指す。(3年目)</p> <p>1 自立と社会参加を目指した教育活動の推進 【重点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の基盤となる言語活動の充実</li> <li>・生涯スポーツに繋がる基礎体力の強化</li> <li>・職業教育の充実</li> <li>・視覚障害を伴う重複障害教育の充実</li> <li>・自立活動を中心とした研究活動の推進と校外への発信</li> <li>・早期教育(幼稚部)の強化</li> </ul> <p>2 視覚障害教育におけるインクルーシブ教育システムの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・盲学校を中核とする「連続した多様な学びの場」(幼・小・中・高・特支)との交流及び共同学習等の推進</li> <li>・京都府視覚支援センターの相談機能(就学前、入学、進路等)の強化</li> </ul> <p>3 共生社会の実現を目指した地域・関係諸機関との連携推進</p> <p>4 人権尊重と安心安全な教育環境を基盤とした学校づくり</p> <p>5 「働き方改革」を踏まえた学校運営</p> <p>6 「京都盲啞院関係資料(重要文化財)」の管理・保存と活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・京都府立聾学校と連携した150周年記念資料集の編纂及び記念行事の検討</li> </ul>	<p>&lt;成果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新学習指導要領を踏まえた授業改善を進め、授業の充実を図った。校内弁論大会、読書週間の取組等とおして、生徒個々の発信力を高める取組を進めた。</li> <li>・専門機関と協力し、防災教室を実施したり、日々の授業の中で、災害時を想定した取組を充実させたりした。(小・中学部)また、避難訓練の開催方法等を工夫することで、防災への意識向上を図った。(全校)</li> <li>・個々の障害に応じたICT機器、視覚支援機器の活用を進め、授業の充実を図った。</li> <li>・個々に合わせた見学や実習、模擬試験の実施等、福祉就労や大学等への進学、あはき国家試験全員合格に向けた取組を進めた。高等部普通科では、卒業学年全員の希望進路実現を果たした。</li> <li>・幼小中学部の一体的運営、高等部との連携強化に取り組み、縦に繋がる学校運営が着実に進んだ。</li> <li>・視覚支援センターを強化し、自立活動分野を中心に、専門性の向上に継続して取り組んだ。</li> <li>・関係機関との連携の下、新たに府北部における相談機会を拡充し、情報発信に努めた。</li> </ul> <p>&lt;課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学部間連携を基盤とした教科指導、自立活動等の一層の充実</li> <li>・学部・学科・学級の実情に応じた交流及び共同学習への取組</li> <li>・キャリア発達と希望進路実現に向けた指導・支援の充実</li> <li>・視覚支援センターの機能強化と校内外の支援力強化</li> <li>・防災・防犯対策の一層の充実</li> <li>・視覚障害教育の専門性向上を図る研究研修の充実</li> <li>・情報発信の充実</li> </ul>	<p>1 新学習指導要領改訂の趣旨を踏まえた、各学部における授業改善</p> <p>2 幼児児童生徒数の推移を踏まえた教育活動の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育活動(行事や授業等)における学部間連携の強化</li> <li>・学部・学科・学級の実情に応じた交流及び共同学習の推進(必要に応じてICTを活用)</li> </ul> <p>3 言語活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内弁論大会の継続と近畿大会への積極的参加</li> <li>・日々の教育活動における取組の工夫</li> </ul> <p>4 キャリア発達と希望進路実現に向けた指導・支援の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア発達を踏まえた教育課程の編成(体験学習、実習等)</li> <li>・社会のニーズを踏まえつつ生徒の実態に適した職場開拓</li> <li>・卒業後の進学・就労等に関する事例の整理</li> </ul> <p>5 ICT教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレット端末等ICT機器や視覚支援機器、点字使用者の情報機器等の活用力の向上と生涯に渡る学習基盤づくり</li> </ul> <p>6 視覚支援センターの機能強化と校内外の支援力強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学部と連携した各種相談体制の充実と、校内外を問わず支援できる校内体制の整備</li> </ul> <p>7 安心安全な教育環境の保障</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・防災・防犯対策の一層の充実</li> <li>・人権尊重を基盤とした教育活動の一層の推進</li> </ul> <p>8 視覚障害教育の専門性及び指導力向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修の充実</li> <li>・免許(視覚障害領域)取得の推進</li> </ul> <p>9 教育活動や学校の取組に関する広報の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学部、担当部署からの定期的な情報発信</li> <li>・ホームページの新システム完全移行と活用の拡大</li> </ul>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
教育活動 全般Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視覚障害教育の専門性と指導力の向上</li> <li>・幼児児童生徒の教育的ニーズの把握、教育内容の明確化と指導方法の工夫</li> <li>・学びの連続性を重視した小中高連携</li> <li>・職業自立を目指し、キャリア教育の視点に立った進路指導の充実</li> </ul>	<b>【幼小中学部】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の障害に合わせた支援を行うため、視覚障害教育の専門性に基づいて、ICT機器や視覚支援機器を活用した指導計画を立てる。</li> <li>・「主体的に学習に取り組む態度」を意識した指導を進める。</li> <li>・学部間で連携し、社会性の育成を目標とした集団活動を積極的に進める。</li> <li>・幼児児童生徒の健康や安全に関し、迅速な報告、共有を図り、速やかな対応に努める。</li> <li>・ホームページを活用し、タイムリーな教育内容の情報発信を行う。 (ホームページ更新6回/月(幼小中各2回))</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視覚障害教育の専門性に基づき、個々の障害に合わせてICT機器や視覚支援機器を活用した支援を行った。</li> <li>・幼児児童生徒が見通しを持って、主体的に学習に取り組めるよう指導・支援を行った。</li> <li>・縦の繋がりを意識した児童生徒会の取組を積極的に行った。また、オンラインや対面で、他校や他府県の視覚支援学校の児童生徒、近隣施設関係者と交流する等、集団の確保と学びの充実を進める土台を作った。</li> <li>・幼児児童生徒が安心して安全に過ごせるよう、教職員で対応訓練を行ったり、ヒヤリハット事象等を学部で共有したりと、速やかな対応に努めた。</li> <li>・月6回以上はタイムリーな教育内容の情報発信を行った。</li> <li>・各教科会議(年3回)をとおして、指導上の課題を中心に、学部を越えて研修を深めた。</li> <li>・交流及び共同学習を着実に実施した。また、授業でのICT利活用を進めることができた。</li> <li>・普通科、理療科とも全学年において、外部機関との連携のもと、体験や実習等をとおして、教育活動が充実した。</li> <li>・保健部及び学部担任と情報を共有し、舎生への健康面での対応を行った。感染症予防対策の徹底を継続した。</li> <li>・学力向上等の舎生のニーズをもとに、学部担任と支援内容を検討し、実施した。</li> <li>・大徳寺校地で活動する幼児児童生徒理解を深め、授業での寄宿舎利用や来校者への寄宿舎見学に対応した。</li> </ul>
		<b>【高等部】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育課程の縦の繋がりを意識した学部間連携を基盤とし、教職員が互いに学び合い、指導力や専門性の向上に努める。</li> <li>・ICT機器を利活用した授業や共同学習等の実践により、深い学びを進める。</li> <li>・外部機関と連携した体験、実習等を取り入れ、教育活動の充実を図る。</li> </ul>	B	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部機関と連携した体験、実習等を取り入れ、教育活動の充実を図る。</li> </ul>	B	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部機関と連携した体験、実習等を取り入れ、教育活動の充実を図る。</li> </ul>	A	
		<b>【寄宿舎部】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保健部等と連携し、舎生の基本的な生活習慣の確立を支援し、感染症予防を徹底する等、健康の維持増進を図る。</li> <li>・学部と連携し、舎生の学習支援のニーズを把握し、学習意欲が育つよう、個々に応じた支援を行う。</li> <li>・各学部と連携し、幼児児童生徒理解の機会を持ち、学校運営に参画する。</li> </ul>	B	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学部と連携し、舎生の学習支援のニーズを把握し、学習意欲が育つよう、個々に応じた支援を行う。</li> </ul>	B	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学部と連携し、幼児児童生徒理解の機会を持ち、学校運営に参画する。</li> </ul>	B	

教育活動 全般2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学部と連携した視覚障害教育の専門性の発信と継承、発展</li> <li>・早期支援の観点からの医療・福祉・行政機関との連携強化</li> <li>・乳幼児教育相談の充実のための幼稚部との連携強化</li> <li>・ホームページを活用した視覚障害教育や教育相談の様子等の情報発信</li> </ul>	<b>【視覚支援センター】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本校教職員に対し、自立活動分野を中心に、各学部で必要とする授業支援を行い、専門性向上に努める。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自立活動を中心とした支援担当者を割り振り、定期的なケース会議を開催した。必要な支援内容や取組課題の検討をとおして、視覚支援や自立活動、教科指導力の向上と専門性の継承に努めた。</li> <li>・巡回及び来校相談において、ケース会議を事前に行い、複数の視点からのアプローチを大切にしながら、ニーズに応じた支援の提案を行った。</li> <li>・サタデースクール(年2回)では、10名以上の地域で学ぶ児童生徒が、授業・障害者スポーツを体験した。保護者に対しては、情報提供や個別相談等を行った。盲学校の理解啓発が進み、継続参加者が増えた。</li> <li>・関係諸機関との合同研修や連携会議を行い、支援にかかわる情報共有を図った。幼稚部と連携し、あおぞら教室(月1回)や北部サテライト教室(年2回)を継続実施することで、早期支援が充実した。</li> <li>・ホームページで、各取組の案内を始め、相談活動の様子等の情報発信を行うことができた。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・本センターで実施する教育相談において、個々の教職員の有する専門性を積極的に活用する。</li> </ul>	B	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・サタデースクール等を開催し、視覚に障害のある子どもや保護者等の交流の場を提供し、本校の有する専門性の発信に努める。</li> <li>・他の教育機関を始め、医療・福祉・行政機関に対し、本センターの活動内容を周知し、早期連携を図る。また、早期支援については、幼稚部と協働し、教育相談を実施する。</li> </ul>	B A	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページを活用し、教育相談活動の様子や研修会、サタデースクール、あおぞら教室、北部サテライト教室等の案内を発信する。</li> </ul>	B	
組織運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な課題に機能的に対応する運営組織の構築</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学部と視覚支援センターが相互に連携し、校内外を支援できる組織作りを一層推進する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学部と支援センターとの連携が進み、校内外を支援する体制が整いつつある。全校組織として支援力を向上させていくためには、この間の成果を整理し、校内外へ発信する必要がある。</li> <li>・代表部長会議等をとおして、各分掌業務等の進捗状況と課題を共有し、校務を着実に進めることができた。今後、更に組織運営を効率的に進めていくためにも、分掌・専門会議業務の見直しを図る必要がある。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・分掌、専門会議における単年度ごとの業務を焦点化し、成果が出せる組織作りを進める。</li> </ul>	B	

進路指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者等に対する早期の情報提供の充実</li> <li>・大学等への進学、国家試験全員合格に向けた学習支援の充実</li> <li>・自ら進路を切り拓く態度や能力の育成</li> <li>・関係機関との連携の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学部段階での適切な情報提供を進めるため、進路計画の再構築を図る。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学部段階での適切な情報提供を行うことができた。</li> <li>・各生徒に応じた、効果的に模擬試験や補習、自学自習の機会を設け、希望進路実現に努めた。</li> <li>・見学や実習等の事前学習や振り返りを充実させ、自己理解を促した。職業観や勤労観を育成していくためには、キャリアパスポートと連動させた、より多くの体験的な活動が必要である。</li> <li>・卒業生の状況把握、個々の生徒に応じた進路先開拓、関係機関との連携強化を図り、希望進路実現に向けて取り組んだ。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・補習授業や模擬試験等を効果的に実施し、希望する大学等への進学、国家試験全員合格を目指す。</li> </ul>	B	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・見学や実習、進路学習等とおして生徒の自己理解を促し、進路に対する関心や態度、職業観・勤労観を育成する。</li> </ul>	B	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業生の追指導、進路先開拓に取り組み、進路に関する新しい情報を収集・提供するとともに、進路先を確保する。</li> </ul>	B	
研究研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共通研究テーマ「視覚障害教育に関する専門性の継承・発展及び指導力・支援力の向上」</li> <li>・基本研修・専門研修の充実</li> <li>・専門的かつ実践的な知識と技能の共有化</li> <li>・授業力、実践力の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共通研究テーマを踏まえた研究活動を推進する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視覚障害教育研究会(年2回)で、点字学習指導についての講演や触察に関するワークショップを実施し、指導力・支援力の向上を図った。</li> <li>・実務的な基本研修を追加実施するとともに、潜在的ニーズの掘り起こしに努め、実施形態等、次年度の研修計画の見直しを図った。</li> <li>・専門性を有する教職員や自立活動推進部、視覚支援センター等と連携し、当初計画していた研修に加え、全教職員対象のテーマ別研修を着実に実施した。</li> <li>・授業公開(年2回)では、学部を越え、見学や意見交流がみられた。専門性を一層向上させるために、実施形態等の検討が必要である。また、実践事例を整理・分類し、共有を図った。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校の現状に即した基本研修・専門研修とするため、実施内容の見直しを図る。</li> </ul>	B	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門性継承を目的とした基本研修や専門研修、校内各組織と連携した研修等を実施する。</li> </ul>	B	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・全校授業公開による実践事例集を作成し、共有を図る。</li> </ul>	B	

<p>生徒指導 ・ 安全教育</p>	<p>・学部及び寄宿舍との連携強化 ・問題事象等に対して、早期発見と組織的かつ計画的な対応 ・幼児児童生徒の安全・防犯・健康に関する意識の向上</p>	<p>・いじめ事象には、「いじめ防止基本方針」に基づき、未然防止を第一に、早期発見、早期解消へ至る一連の対応を徹底する。 ・安心安全な学校生活を送るために必要なルールやマナーの徹底を図る。また、学校の施設・設備に対し、校内安全点検を実施し、校内環境の改善を図る。 ・感染症予防について、理解を深めるとともに、健康的な生活習慣や食生活が実践できるよう日常的な保健指導を推進する。 ・各校地の特性を踏まえた避難訓練や防犯訓練等を計画的に実施する。</p>	<p>B  A  B  B</p>	<p>・年度当初に、全教職員へ、いじめ防止基本方針やマニュアルを周知徹底し、問題事象の未然防止に努めた。いじめ調査(年2回)の実施といじめ対策委員会により、学部間の情報を共有し、指導方針を決定した上で、個々のケースに対応した。 ・学校安全点検を実施し、校内施設設備の安全性向上を図った。アクシデント等発生時の緊急時対応マニュアルを整理するとともに、教職員を対象に緊急時対応訓練を両校地で実施した。 ・感染症予防や健康的な生活習慣・食生活について、日々の指導に加え、各校地の児童・生徒集会や各種たよりで理解を促した。薬物乱用防止教室を実施し、薬物の危険性等を指導した。 ・避難訓練(各校地、年2回)を実施した。消防署と連携し、障害の状況を踏まえた避難経路の確認、消火器の使用法の周知、教員向け消火栓の使用法の周知を行った。防犯対策として、両校地の校門に防犯ステッカーを取り付けた。大徳寺校地では、警察署と連携し、2月に防犯訓練を実施した。</p>
<p>I C T 教 育 ・ 情報管理</p>	<p>・他校との共同学習の支援 ・ I C T教育力のスキルアップと授業での活用の推進 ・定期的な校内環境の保守管理及びセキュリティインシデント対策の徹底</p>	<p>・各学部と連携し、他府県盲学校や府内の視覚支援学級との共同学習や交流のサポートを行う。 ・京都府教育委員会が実施する「学校DX研修」を全教職員が受講することにより、I C T教育のスキルアップを図る。また、研修で取得した内容を活かした授業が展開できるようサポートを行い、I C T活用を推進する。 ・ホームページを活用した広報活動の一層の充実を図る。 ・ I C T教育を円滑に実施するため、校内環境の保守管理を行うとともに、教職員のセキュリティ意識の向上に努める。</p>	<p>B  B  A  B</p>	<p>・ I C Tを活用した交流及び共同学習については、全校的に定着しつつある。 ・学校DX研修については、対象教職員の受講が終了し、全体的なスキルアップに繋がった。生成A Iやノートアプリについて、校内で関心が高まり、互いに学び合う場面もみられた。 ・ホームページをリニューアルし、担当者が情報発信しやすく、閲覧者がより見やすいようにした。日々の教育活動をリアルタイムに発信することができた。 ・タブレット端末を管理するために、教員用や生徒用の管理簿を作成した。</p>

<p>学校関係者 評価委員会 による評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化祭や弁論大会は、言語活動の取組を発揮する場として、生徒が自信を持ち、生きる力に繋がる。今後も大いに推進すること。</li> <li>・各学部、工夫しながら集団を確保し、将来の生活に繋がる学習ができています。今後も、学部間連携を含め、子どもの実態に合わせ、より良い集団の確保に努めること。</li> <li>・ICTを利活用した教育が進められている。タブレット端末や拡大読書器、点字タイプライター等、場面に応じて、視覚支援機器をフル活用した取組を進めること。</li> <li>・地域校に在籍する視覚に障害のある生徒とオンラインで交流したり、他県の盲学校生徒が修学旅行で京都を訪れたときに交流したりする取組がなされている。今後も、外部との繋がりを持ち、継続してキャリア教育を見据えた取組を行うこと。</li> <li>・理療科においても、福祉や様々な関係機関と連携し、これまで以上に個々の状況に応じた幅広い進路指導を進めること。</li> <li>・ここ数年、地域校から義務教育段階の入学者が続いている。視覚支援センターの支援の成果と捉え、地域支援の一層の充実を図ること。</li> <li>・インクルーシブ教育が進められている中、地域支援においては、子ども自身の困り感に目を向けた支援に努めること。</li> <li>・特別支援学校教員免許について、視覚領域を養成している大学が少ない中、通信教育等を活用し、自分自身を高め、教育として返していこうとしている教員の姿勢には好感が持てる。今後も、専門性向上のため、工夫しながら免許取得を推進すること。</li> </ul>
<p>次年度に 向けた改善の 方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言語活動を中心に据えた教育活動の一層の推進</li> <li>・少人数を活かした教育活動の充実</li> <li>・学部や学習グループの実態に応じた交流及び共同学習の充実</li> <li>・関係機関との連携による進路指導・キャリア教育の充実</li> <li>・自立活動を中心とした教育実践の整理と発信</li> <li>・個々の視覚障害幼児児童生徒の状況に応じた地域支援の充実</li> <li>・京都府南部視覚・聴覚支援センターと連携した新たな支援体制の構築</li> <li>・専門性向上のための研究研修の一層の推進</li> </ul>